

2014年(平成26年)の貧酸素水塊(まとめ)

2014年の貧酸素水塊の分布およびその規模を図1～図3に示します。

貧酸素水塊の初確認は4月24日で、ほぼ例年並みでした。

その後次第に底層DOは低下し、6月からはしばしば1mL/L以下の海域が広がりました。7月上旬に貧酸素水塊の規模は最大(49%)となり(図2)、7月としては直近十年の平均を上回る大きさでした。ただ、過去の年間最大規模との比較では、ここ十数年と同等でした(図3)。

7月中旬～9月下旬にかけても北部の広範囲で、継続してDOが1mL/Lを下回る海域がみられましたが、8月上旬に数日間続いた南西風の影響で、貧酸素水塊の分布域が南西方向に移動したため、一時的に規模は縮小しました。

8月下旬～9月上旬に湾奥部で青潮が発生し、また10月上旬と中旬には相次いで台風が通過しました。青潮による貧酸素水塊の海面への放出および台風による攪拌で、貧酸素水塊の規模はこの時期に急速に小さくなりました(図2)。

貧酸素水塊は10月以降は例年通り縮小しましたが、11月下旬でも小規模な発生が見られました。そのため貧酸素水塊の解消が確認されたのは、例年より少し遅れ12月9日でした。

千葉県水質保全課によると、青潮は2回発生しました(6月6～10日、8月27～9月9日)。

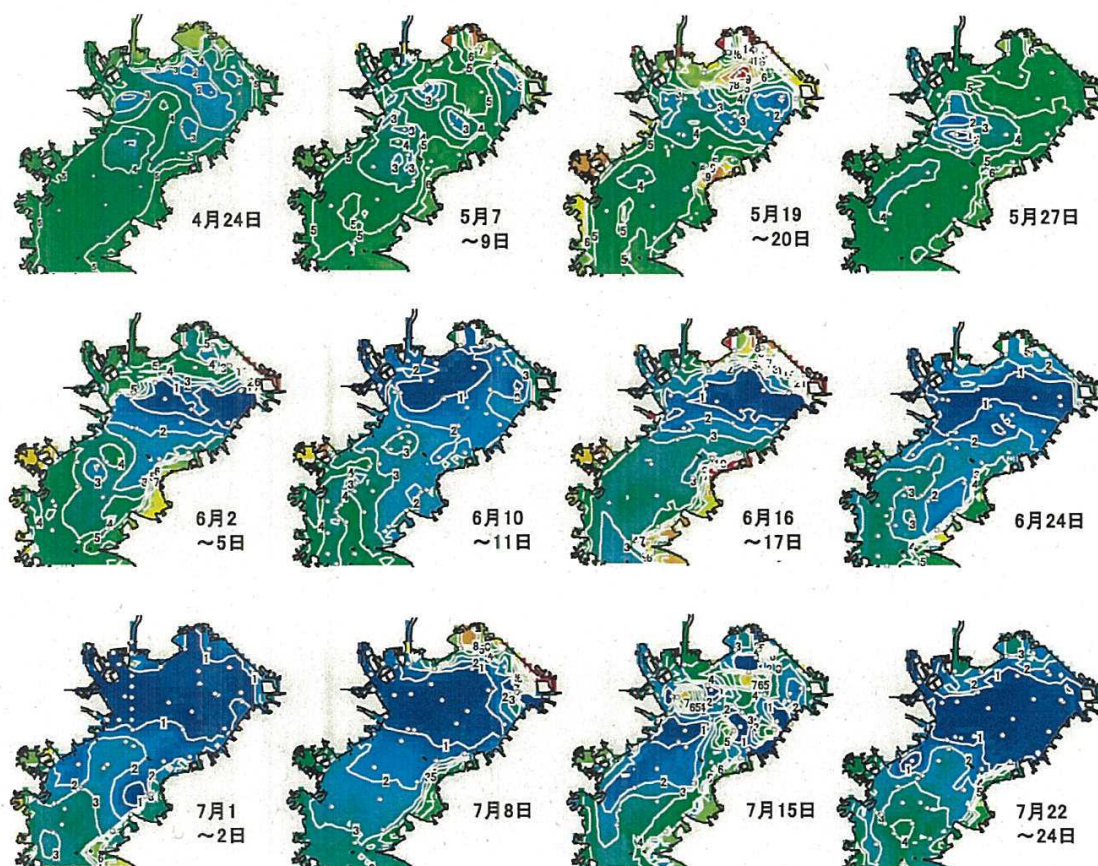


図1 底層の貧酸素水塊の分布

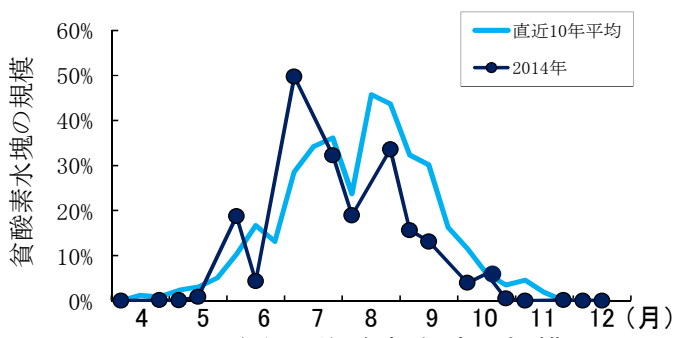
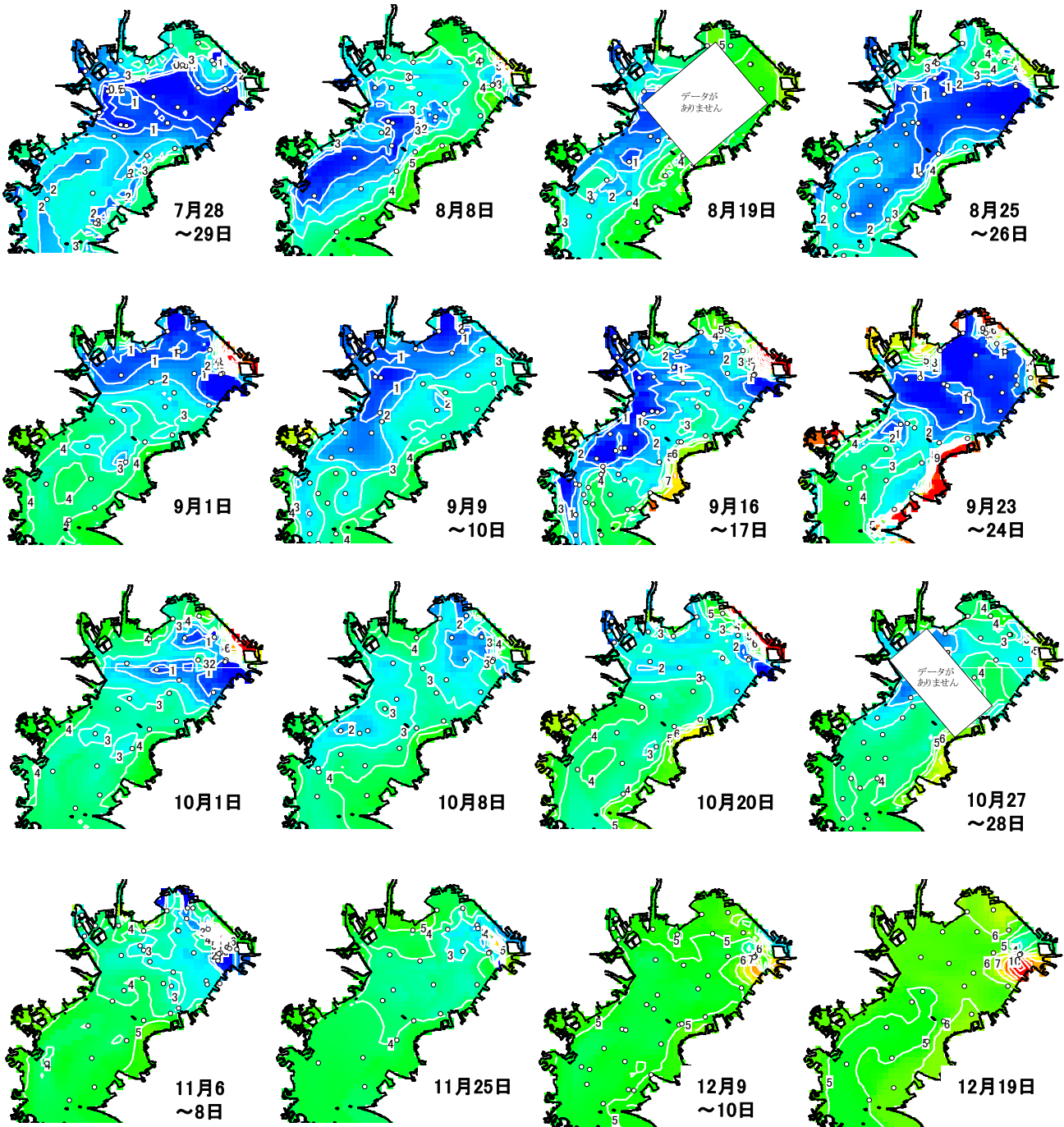


図2 貧酸素水塊の規模

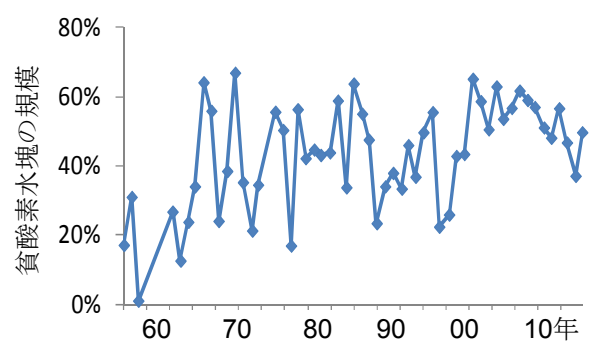


図3 年間最大規模の経年変化 (1955年~2014年)

船橋漁協による観測結果 底層のDO分布図 (単位はmL/L)

※船橋・市川の両航路の観測点は表層から2mの観測値を用いた

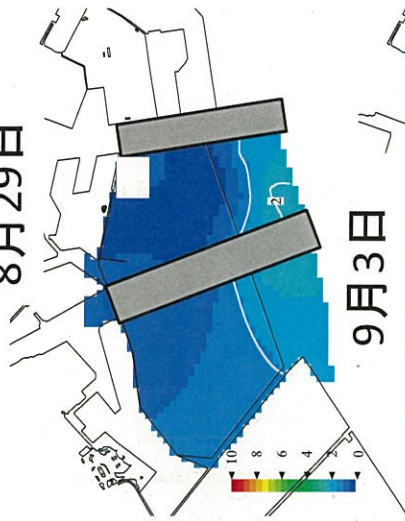
8月27日



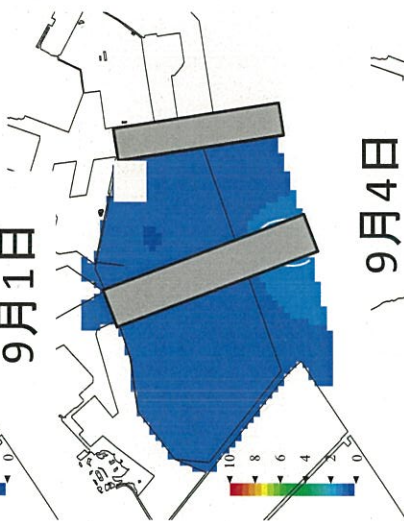
8月28日



8月29日



9月1日



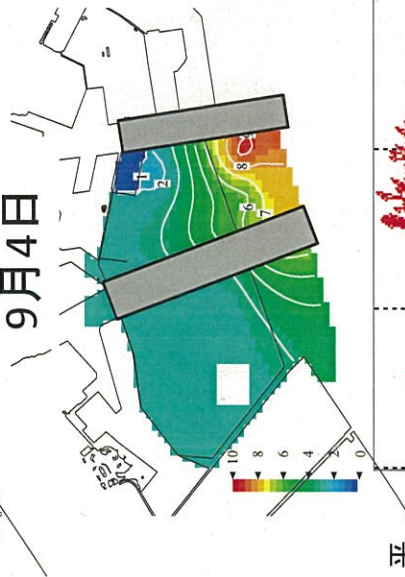
9月2日



9月3日



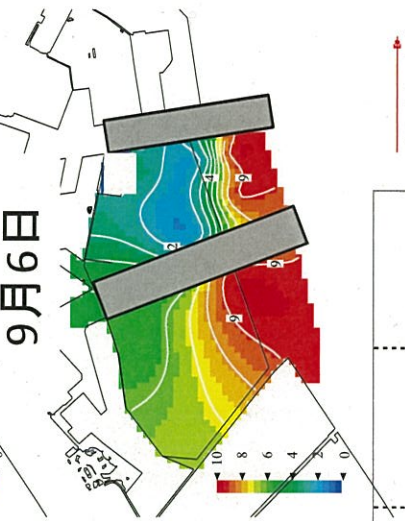
9月4日



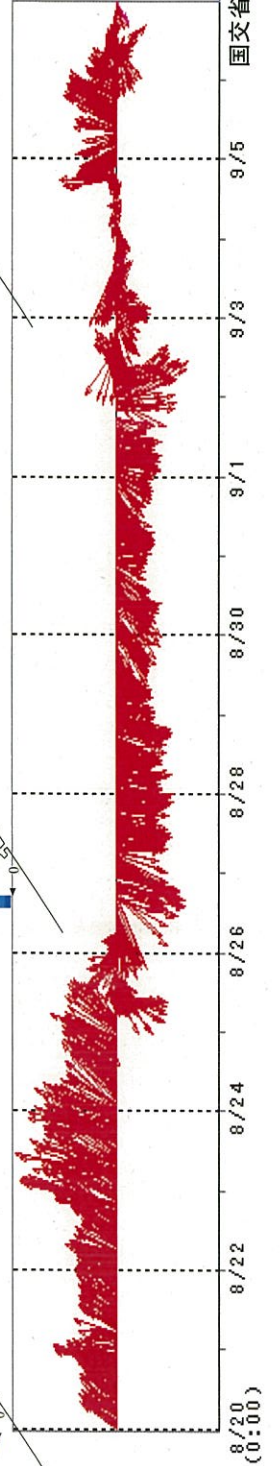
9月5日



9月6日



平均風況(m/s)



国交省モニタリングポストから引用

貧酸素水塊の分布状況

平成26年8月25日～26日の観測結果

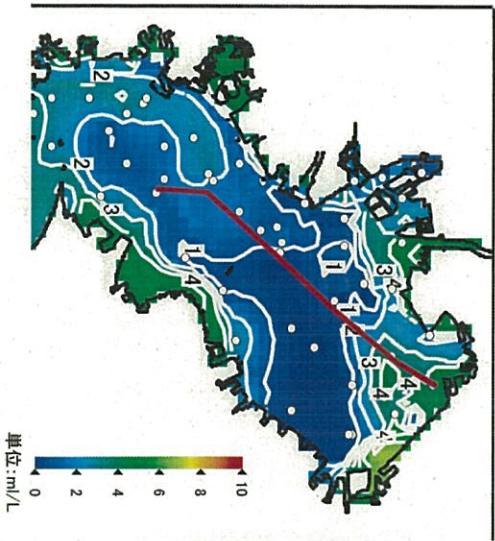


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)
単位:ml/L



平成26年9月1日の観測結果

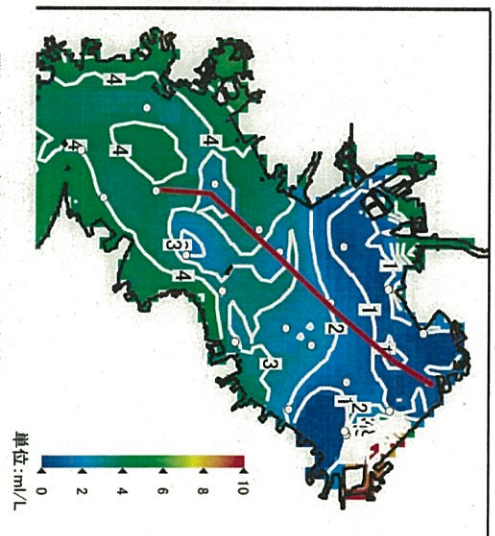


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)
単位:ml/L

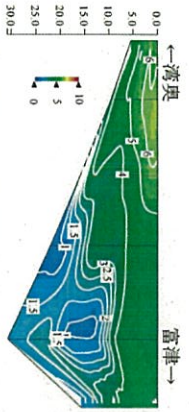


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

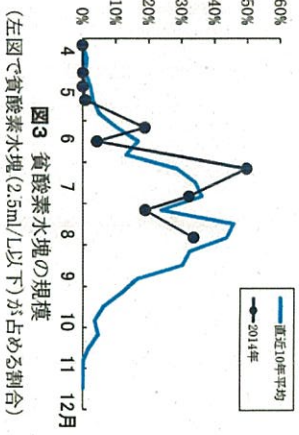


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)



図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

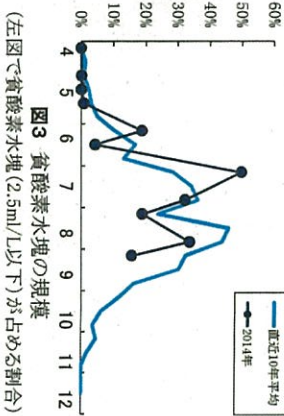
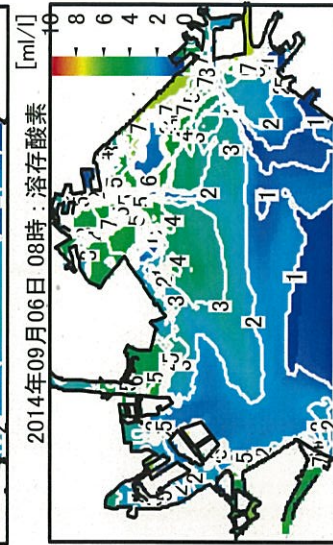
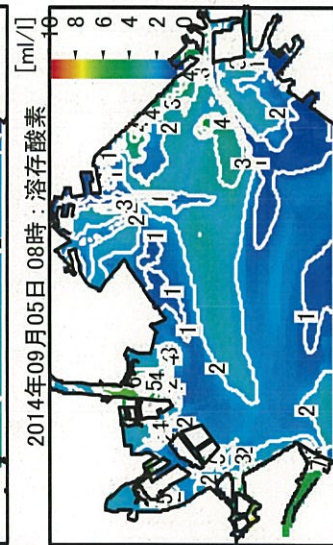
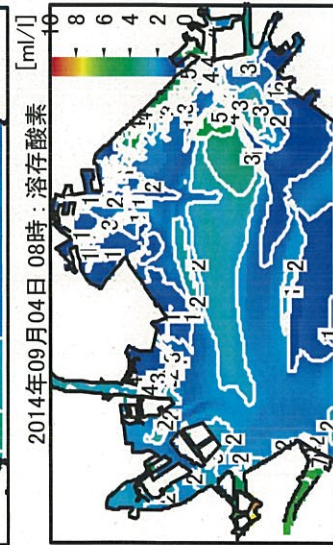
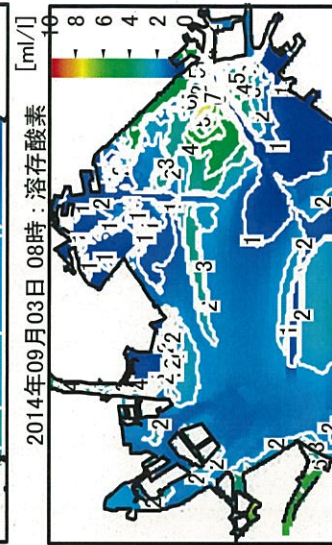
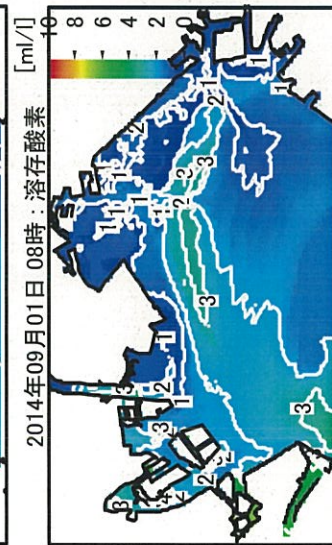
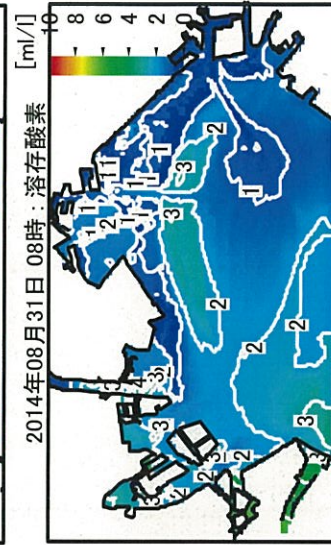
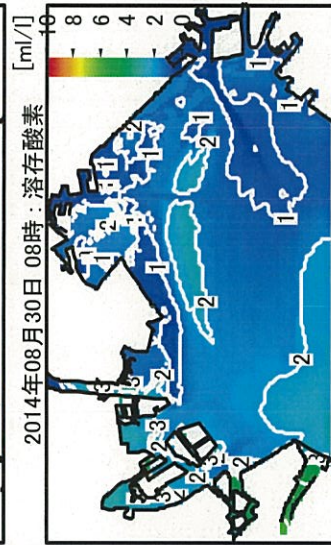
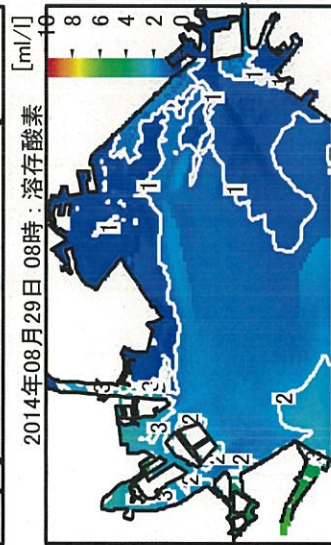
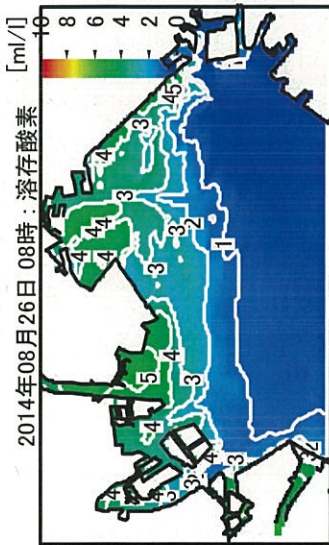
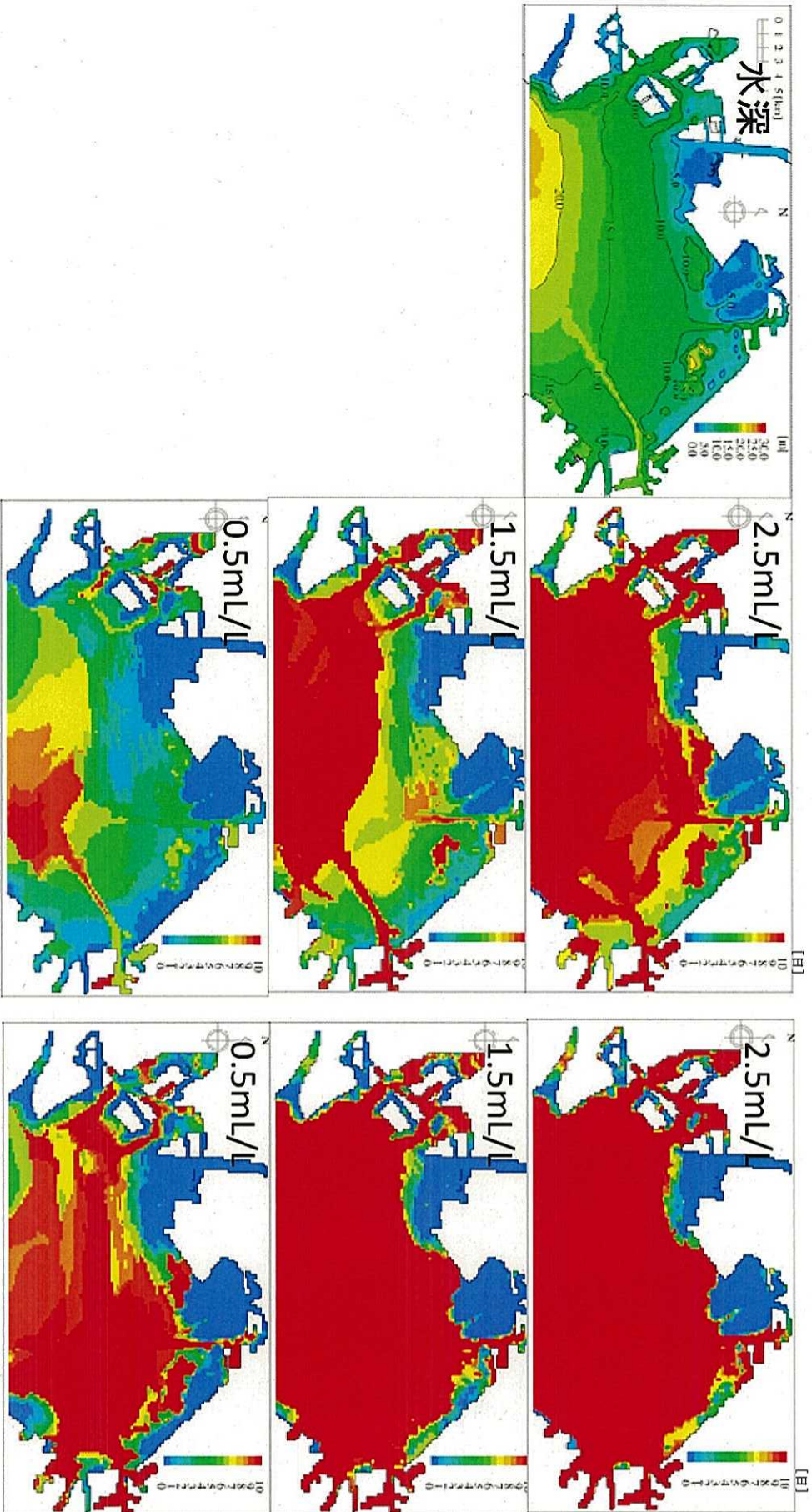


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)

千葉県水産総合研究センター貧酸素水塊速報(2014年)から抜粋

貧酸素水塊分布予測システムによる推定結果 底層のDO分布図(単位はmL/L)

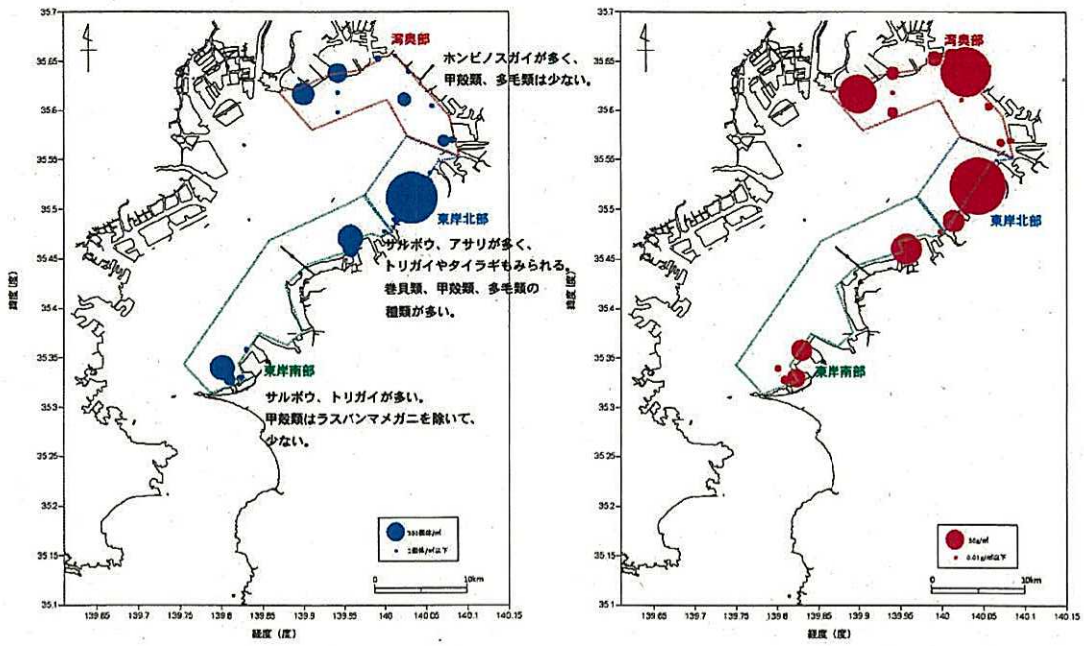




湾奥部の貧酸素水塊継続日数(2011年)

湾奥部の貧酸素水塊継続日数(2012年)

* 底層のDO分布図(継続日数とは連続して計測したDO (mg/L)の日数)



個体数

湿重量

図 4-2-2 底生生物の出現状況